

2025 年 8 月 15 日
公益財団法人 日本英語検定協会

英検協会『統合報告書 2025』（pp.37-38） 【コラム第 7 弾】

「データで見る英検® ～小・中・高校生の英語力向上の状況～」

小学生

—本報告書の主なトピックを毎週金曜日に順次ご紹介いたします—

先般、7 月 1 日に英検協会として初めて「統合報告書 2025」を公開いたしました※1。
以降、毎週金曜日に本報告書の主なトピックをコラム形式でご紹介しております。今回は第 7 弾として、
報告書 pp.37-38 に掲載した「データで見る英検 ～小・中・高校生の英語力向上の状況～ 小学生」
についてご紹介いたします。これを機会に、過去コラム第 1 弾から第 6 弾もぜひご覧下さい。

【コラム第 1 弾】統合報告書 2025 | 他グローバル試験に引けを取らない英検（受験者数・検定料）（2025 年 7 月 4 日付）

【コラム第 2 弾】統合報告書 2025 | 2024 年度の取り組み（問題制作・採点業務改革）（2025 年 7 月 11 日付）

【コラム第 3 弾】統合報告書 2025 | 2024 年度の取り組み（デジタルサービス推進）（2025 年 7 月 18 日付）

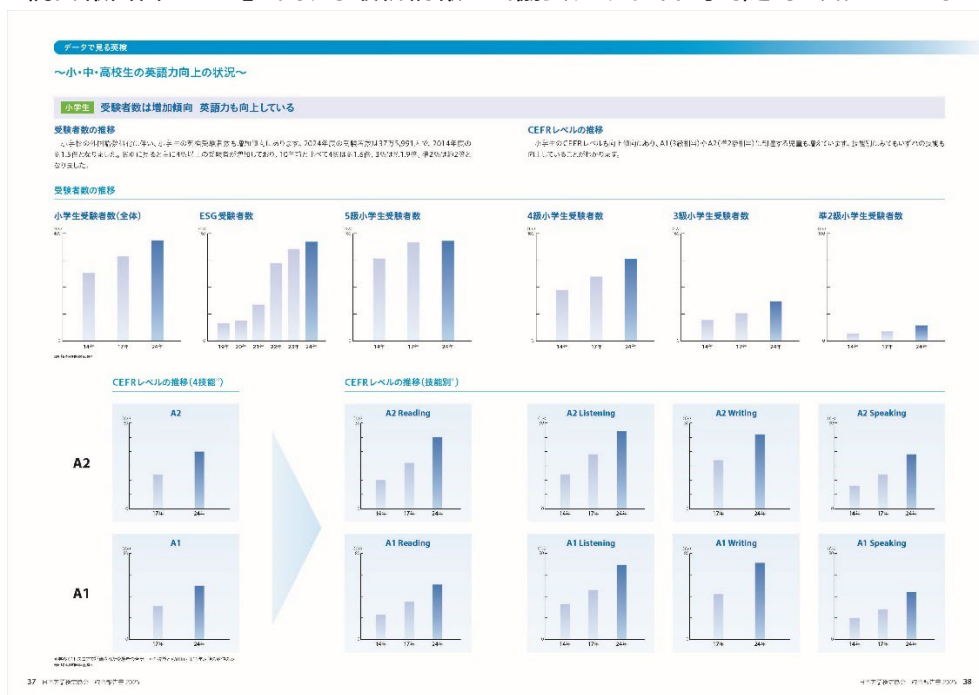
【コラム第 4 弾】統合報告書 2025 | 2024 年度の取り組み（英検 S-CBT 海外展開）（2025 年 7 月 25 日付）

【コラム第 5 弾】統合報告書 2025 | データで見る英検（高校生の英語力向上の状況）（2025 年 8 月 1 日付）

【コラム第 6 弾】統合報告書 2025 | データで見る英検（中学生の英語力向上の状況）（2025 年 8 月 8 日付）

※1 英検協会初、10 年の成果と DX 戦略をまとめた『統合報告書 2025』公開（2025 年 7 月 1 日付）

今後も『統合報告書 2025』に関する最新情報は当協会ウェブサイト等で随時お知らせいたします。



(コラム)

【小学生編】学習到達目標の明確化がもたらした英語力の底上げ

コラムのまとめ

- ・2024 年度の英検受験者は、2014 年度比「約 1.5 倍」。主に 4 級以上の受験者が増加
- ・CEFR^{※2} で A1（3 級相当）・A2（準 2 級相当）到達児童が増加
- ・小学校段階での到達レベルの早期化が進み、中学以降 A2・B1 の拡大につながる基盤形成が進行

2024 年度の小学生の英検受験者は 37 万 5,991 人。この 10 年で約 1.5 倍に増え、¹小学生の英語学習への取り組みは着実に拡大しています。とくに増加の中心は 4 級以上で、4 級約 1.6 倍、3 級約 1.9 倍、準 2 級約 2 倍と、中位級の伸びが顕著です。

CEFR の推移を見ると、A1・A2 到達者がともに増加しています。技能別でもリーディング、リスニング、ライティング、スピーキングの 4 技能がいずれも上向きで、従来の「読む・聞く先行」に偏らないバランスの良い伸びが見られます。

背景には、小学校における外国語の教科化により学習到達目標の明確化が進んだことがあると考えられます。受験級の中位シフトは、学習内容を整理して教えることと、評価の機会が増えたことが合わさって、A1 の定着と A2 到達の拡大を後押ししている表れと言えるでしょう。

本コラムの中学生編・高校生編で示したとおり、中学校では A2 や B1 に到達する生徒が増え、高校では 2 級・準 1 級の合格者が増えています。小学校で A1→A2 へ踏み出す児童が増えるほど、その後の A2→B1→B2 への移行は円滑になります。小・中・高の接続で見たとき、小学校段階の底上げは、中学校・高校の伸びを支える確かな土台です。

※2 CEFR：言語能力を 6 段階で評価する国際的な指標

A1 = 英検 3 級相当

A2 = 英検準 2 級相当

B1 = 英検 2 級相当

B2 = 英検準 1 級相当

※「英検」およびそのロゴは、公益財団法人 日本英語検定協会の登録商標または商標です。

本件に関するお問い合わせ先

公益財団法人 日本英語検定協会 広報担当 (kouhou21@eiken.or.jp)